

株主通信

第4期中間決算号

平成18年3月1日～平成18年8月31日

株式会社 三越
証券コード：2779

MITSUBUKOSHI

三越企業理念

- ◆社会的貢献と企業の繁栄
- ◆伝統を越える革新性
- ◆まごころと創意工夫

CONTENTS

三越企業理念／株主のみなさまへ	1
BUSINESS REPORT	3
MITSUBUKOSHI NEWS NOW	5
MITSUBUKOSHI CSRへの取り組み	6
連結中間決算ハイライト	7
事業別セグメントの概況	8
連結中間決算の状況	9
単体中間決算の状況	11
会社の概況／株式の状況	12
株主様優待制度のご案内	13

**上質な暮らしを求める大人の
ゆたかなときを創造することにより
最もブランド価値の高い企業を目指します。**

当社グループは「新生・三越」となりまして
第4期目を迎えました。
いつも新鮮な気持ちで上質な「おもてなし」と「こちよさ」を。
三越の原点は「まごころ」です。

平成19年度からの次期経営計画に向け
原点に立ち帰り、
変化するライフスタイルを感じとり、一人一人の
お客様のご期待に応え続け、新たなブランド価値を
創造してまいります。



「天女像(まごころ)」

佐藤玄々氏によって製作されたこの像は、
1960年4月19日、株式会社三越創立50
周年記念事業のひとつとして、日本橋本店
1階中央ホールに据えられました。企業理
念の「まごころと創意工夫」のまごころを象
徴しています。

株主のみなさまには、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご支援ご愛顧を賜り、誠に有難く厚く御礼申し上げます。

さて、当社グループ第4期（平成18年3月1日から平成19年2月28日まで）の中間の事業概況をご報告申し上げます。

当社グループは本年度を現「中期5ヵ年計画」の最終年度であると同時に、平成19年度よりスタートする「次期経営計画」のゼロ年度として捉え、さまざま基盤整備に取り組んでまいりました。第一に、当社グループの中核事業である百貨店事業の収益力強化であります。具体的には売場運営力の向上と店舗戦略の確立を踏まえた戦略的投資により、三越の「ブランド価値」を高めていく「新・三越モデル」の構築を進めてまいりました。また、物流改革や購買改革などのコスト削減や、郊外型店舗の開発、松竹株式会社や日本郵政公社などの異業種とのアライアンス事業など成長戦略・新規ビジネスの基盤づくりを推進してまいりました。

今後も、業界内の競争に加え、業態間の競争と業態を超えた企業再編など、当社グループを取り巻く環境はますます厳しくなると予想されますが、今平成18年度につきましては、銀座店のリニューアル、

高松店の地元商店街再開発への参画、武蔵村山におけるショッピングセンターへの出店などの取り組みをしっかりと実行していくことで、通期の営業利益目標達成を目指してまいります。

以上のような状況を慎重に勘案いたしまして、中間期での剰余金の配当の実施を見送らせていただきたく存じます。

株主のみなさまにおかれましては格別のご理解を賜り、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長
石塚 邦雄
Kunio Ishizuka

REPORT

01

百貨店事業の収益力アップ

三越グループの中核事業である百貨店事業では、「MD・品揃え」「接客・CRM」「空間ビジュアル」を磨き上げ、三越のブランドを高めることに取り組んでまいりました。当社が運営の主体性を持つことで同業他社と差異化する「重点売場」の構築のために、戦略的に追加投資をいたしました売場については、売上高前年同期比8.0%増で推移し、成果は着実に始始めております。また売場運営の基本となる発注や接客、顧客づくり、VMDなどを体系化した「売場運営モデル」を先行して導入いたしました「ニューヨークランウェイ」、「婦人靴」、「菓遊庵」の3つの売場についても売上高が伸びております。

さらに、ブランド価値を高めて固定顧客を増やしていく取り組みについては、優良顧客である「お帳場」ご招待会の本店での来場者が前年同期比3.9%増となったことや、新設いたしました三越美術部のネットワークを活かしたことにより、美術品が売上高前年同期比15.1%増となりました。こうした取り組みの結果、当社発行カードを保有しているお客様のうち、年間50万円以上お買上のお客様数が前年同期比1.2%増となりました。

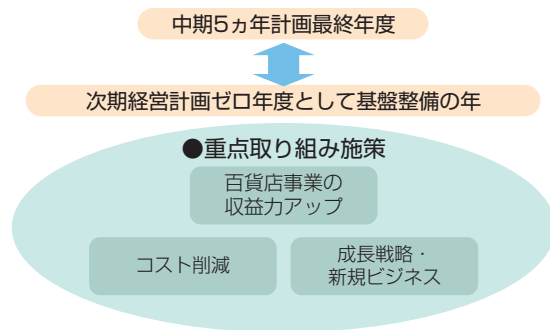
REPORT

02

コスト削減の取り組み

「中期5ヵ年計画」の最終年度として、事業の抜本的改革と不採算店舗の閉鎖など、コスト削減に努めてまいりました。人件費は、昨年度の店舗閉鎖に伴う早期退職優遇措置などの影響により前年同期比6.2%減となりました。また物流改革や、購買改革の領域拡大等、構造改革の影響により、物流費16.5%減、宣伝費5.5%減となりました。減価償却費につきましては、減損会計導入の影響により14.8%減となりました。

■平成18年度の方針



【新・三越モデル先行店舗】



◀ 仙台店 重点売場
ミグジュアリープラス

こうした取り組みにより、平成18年度上半期単体で販管費61億円減、連結で66億円減となり、通期連結ではおよそ81億円の削減を見込んでおります。

【主なコスト削減費目】(単位：百万円)

人件費	38,974	△6.2% 2,409減	36,565
物流費	9,808	△16.5% 1,619減	8,189
宣伝費	11,084	△5.5% 609減	10,475
減価償却費	6,311	△14.8% 932減	5,379
	前中間期		当中間期

成長戦略・新規ビジネスの 基盤整備

当社は、郊外型店舗事業を百貨店事業に続く次世代の成長事業と位置づけ、ショッピングセンター型店舗の出店を拡大いたします。平成18年11月18日に「ダイヤモンドシティ・ミュウ」へ武蔵村山店を、平成19年3月（予定）に宮城県名取市の「ダイヤモンドシティ・エアリ」に名取店（仮称）を出店し、今後多店舗化するなかでコストを軽減して高収益化をはかります。

大都市圏の主要店舗であるフラッグシップ型店舗の出店地域に

おいて、お客様の郊外の居住圏に郊外型店舗を配置することで、地域のお客様との接点を最大に高めていく地域戦略により、地域の中で総合力を高めて競争優位を確立してまいります。



▲「ダイヤモンドシティ・エアリ」外観イメージ

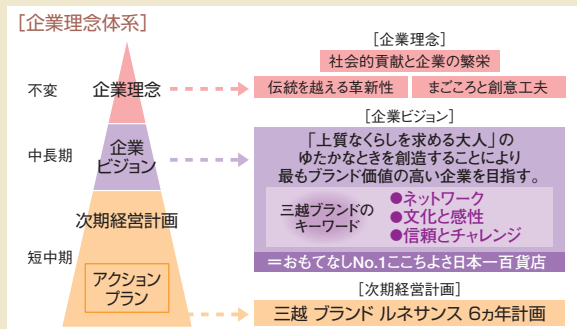
次期経営計画の概要について

■三越 ブランド ルネサンス 6ヵ年計画

当社には創業以来、連綿と積み重ねてきた大切なブランドがあります。このブランドをさらに磨き上げていくためには、時代の変化、お客様が求めるものの変化に対応しながら、三越ならではの価値を高めていかなければなりません。

ルネサンスとは、中世欧州において古代文化を再認識し、新しい文化を創造することで、近世に時代の扉を開けた大きなチャレンジであったことから、次期経営計画の名称といたしました。

次期経営計画では、三越のブランドのルネサンスにチャレンジすることで、新たな三越のブランド価値を創造いたします。



■企業理念・ビジョン

次期経営計画策定にあたり、従来の「経営理念」を全従業員が共有する理念として「企業理念」とし、原点に立ち返って「企業理念」を実現することが当社の方向性と考えます。

この企業理念をうけた企業ビジョンを、「『上質な暮らしを求める大人』のゆたかなときを創造することにより、最もブランド価値の高い企業を目指す」といたしました。

■次期経営計画

理念・ビジョンを受けた具体的な企業活動の設計図として、平成19年度をスタートとする「三越 ブランド ルネサンス 6ヵ年計画」を策定いたします。当社は「上質な暮らしを求める大人」をターゲットとし、フューチャーエグゼクティブをイメージした品揃え・店づくりを行うことにより、当社のポジショニングを明確にし、永続的にご愛顧いただけるお客様を拡大してまいります。

具体的なアクションプランとして5つの戦略「チャレンジ5」を策定いたしました。詳細につきましては、平成19年春を目標に公表を予定しております。

【5つのチャレンジ】



日本郵政公社と共同開発の 「三越メッセージギフト」販売開始

日本郵政公社と共同で、本年4月3日から、ご結婚、ご出産、快気祝いなどのお祝いのメッセージとギフトインデックスを同時に贈るサービス「三越メッセージギフト」の販売を開始いたしました。一般書書とカタログギフトの同時配達には日本国内初となります。

「三越メッセージギフト」は、贈る側の予算に合わせて5つのコースを設定、数種類のメッセージカードから1種類を選び、心を込めたメッセージを添えたギフトインデックスを日本郵政公社と共同開発のパッケージに収めてお届けする仕組みとなります。サービスの利用地域は北海道・東北地方から開始し、本年10月からは全国の郵便局に拡大いたしました。

三越は、日本郵政公社のネットワークを活用することにより、全国すべての地域での「三越メッセージギフト」の取扱いが可能となりました。



▲三越メッセージギフトのイメージ

「街歩きの楽しさ」をテーマにリニューアル 多摩センター店

本年3月17日、専門館事業部多摩センター店がフロアを拡大し、「郊外専門館モデル」として、リニューアルオープンいたしました。

このリニューアルでは、大塚家具が営業していた2階部分を三越の売場として新設いたしました。

多摩地区では、ここ5年間に30歳代の家族世帯が増加し、住民構成が変化しております。このことを踏まえ、主要ターゲットを30歳代のヤングミセスとそのファミリーに再設定し、新たな店づくりをいたしました。中でもファミリーが安心して楽しく買い物できるように、2階フロアは大小さまざまなショップを街歩きの感覚で集積し、所々に木製のベンチがあるなど公園内を散歩しているようなくつろぎ感を演出いたしました。また、お子様連れのファミリーを意識して、通路は広さだけでなく、ベビーカーを動かしやすいタイルを使用するなど素材にもこだわり、お子様用トイレやベビー休憩室を設置いたしました。



▲多摩センター店 2階フロア

お客様からはご好評をいただいております。売上高、来客数ともに好調に推移しております。

パリ・三越エトワール 「アンドレ・ブラジリエ展」開催

三越エトワールはパリにおける日本文化の発信地としての役割を担っており、本年も世界の現代画壇を代表する画家のひとりであるアンドレ・ブラジリエ画伯の画業55年にわたる回顧展を3月20日から6月3日まで開催いたしました。



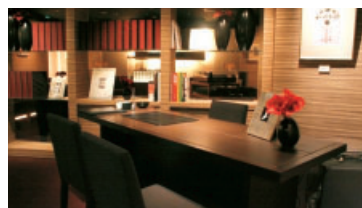
▲「アンドレ・ブラジリエ展」ポスター

今年77歳を迎えられる画伯は昨年秋、サンクトペテルブルクのロシア国立エルミタージュ美術館にて栄えある回顧展を開催いたしました。三越エトワールで開催した本展は、そのパリ凱旋展として開催したもので、フランスをはじめ欧州各国の美術界から好評を博しました。

また、本展は本年10月から東京日本橋三越本店を皮切りに、名古屋、新潟、札幌、福岡を巡回する予定です。

なお、来年平成19年には、三越・美術部創設100年を迎えます。今後三越は、芸術・文化面での活動をさらに積極的に進めていく予定です。

「三越Yourセクレタリー」サービス 日本橋本店にて開始



▲日本橋本店の「三越Yourセクレタリー」サービスコーナー

「三越Yourセクレタリー」は、お客様に対して提供される登録制の秘書機能サービスとなります。セクレタリーは、お客様が要望するライフスタイルと、そのセンスアップを実現するため、カルテ

を作成し、関連商品やサービスを編集して提案いたします。

これは、三越が長年培ってきた顧客接点での強みを生かし、時代に合わせた形で再展開するものです。特にご好評をいただいておりますのが、プロによるファッションコーディネートサービスで、装いや旅行のワードローブ、男性のおしゃれ普段着など、一人一人のケースに合わせた着こなし提案などが、喜ばれております。今後も、パーティーや歌舞伎観劇・旅行など、さまざまなシーンでのご提案を行っていく予定です。

平成19年は、日本橋本店にてさらにこのサービスを進め、順次、各店に拡大する予定です。

MITSUKOSHI

CSR (企業の社会的責任) への取り組み

CSR

三越の使命は「社会のお役に立つこと」

企業のあり方としてその時代時代に「社会のお役に立つ」ということがなければ、企業の存続も成長もないのは当然です。

本業の事業活動、三越では主に小売・百貨店事業において社会のお役に立つことがわたくしたちの責任であり、それなくしては長期に亘る成長もなしえません。これを、個人レベルで考えますと、まずは日々の仕事（販売・接客）の中でお客様のお役に立っているか否かを自覚し、行動することが第一歩となります。その積み重ねが各ステークホルダーの三越に対する信頼につながると確信しております。これは、約100年前、百貨店宣言をした日比翁助（当時の三越専務取締役）の考え方を源流にしています。



日比翁助

三越 CSRレポート 2006を発刊 (9月中旬)

三越の社会的責任をみなさまにご理解いただくため、三越CSRレポートをはじめて発刊いたしました。

トップメッセージ、ステークホルダーダイアログ、そして企業統治とコンプライアンス、新・三越モデル、三越のLOHAS、芸術文化とともに百年などの特集記事に加え、ステークホルダーごとに分けた取り組みの紹介、そして継続的に報告をしている環境への取り組みなどを掲載いたしております。



ステークホルダーダイアログ (外部有識者との意見交換会)を開催

第2回ステークホルダーダイアログを開催し、それぞれ異なるステークホルダーから多角的にご意見を頂戴いたしました。その中でいくつかのご意見の要旨を紹介いたしますと

- 百貨店のCSRは、企業のアイデンティティを明確にし、顧客の信頼をつかんでいくことである
- トータルな売場展開により店の主張がみえてこなければ、顧客の信頼は得られない
- 苦情は二度と繰り返さない仕組みをつくることが肝要である
- 三越のあるべき姿があって、はじめてお客様の期待が生まれ企業の信頼につながる
- 何のために三越が社会にあるのかを全員で共有すること
これらのご意見を実際に行動に移していくことがわたくしたちの責任です。



「商品・サービスの側面において三越が社会に果たす役割は何か」をテーマに議論が進められました。

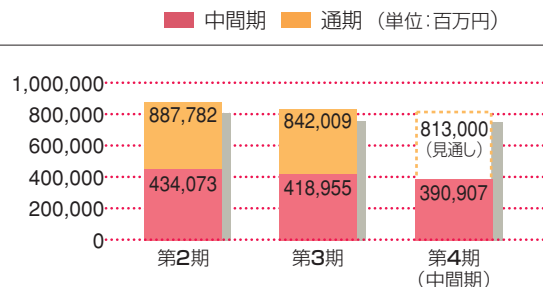
連結中間決算の概況をお知らせいたします。

連結中間決算ハイライト

Financial Highlights

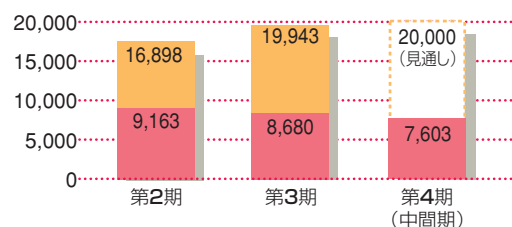
連結売上高

主に店舗閉鎖、日本橋本店地下バリアフリー工事などによる三越単体の売上減収の影響から前年同期比較28,047百万円減(6.7%減)となりました。これらの減収要因を除いた前年同期比では若干のマイナスであったと捉えています。通期見通しとしては、813,000百万円を見込んでおります。



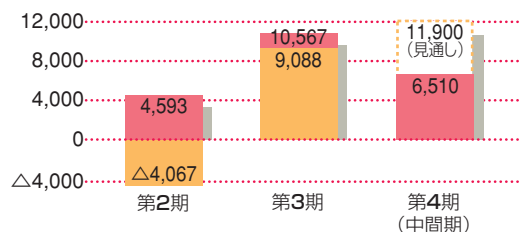
連結経常利益

売上総利益率の改善、販管費の削減をはかったものの台湾・新光三越の業績が社会情勢の影響もあり、持分法投資利益が2,199百万円と前年同期比較で194百万円減となり、連結経常利益は前年同期比較で1,077百万円減(12.4%減)となりました。通期見通しとしては、20,000百万円を見込んでおります。



連結中間(当期)純利益

物流施設の売却等により、特別利益として15,446百万円、減損損失の計上や物流構造改革に伴う早期退職措置等により、特別損失として18,406百万円を計上いたしました。その結果、中間純利益は前年同期比較4,057百万円減(38.4%減)となりました。通期見通しとしては、11,900百万円を見込んでおります。



連結	単位	H17年2月期		H18年2月期		H19年2月期 中間期
		中間期	通期	中間期	通期	
売上高	(百万円)	434,073	887,782	418,955	842,009	390,907
営業利益	(百万円)	7,403	15,214	7,194	15,272	6,394
経常利益	(百万円)	9,163	16,898	8,680	19,943	7,603
中間(当期)純利益(△損失)	(百万円)	4,593	△4,067	10,567	9,088	6,510
純資産	(百万円)	137,186	129,025	139,537	140,018	154,212
自己資本比率	(%)	22.1	20.3	22.7	23.4	26.7
ROE(自己資本中間(当期)純利益率)	(%)	6.8	△3.1	15.7	6.8	8.8
総資産	(百万円)	621,783	636,879	614,133	597,349	576,838

百貨店業

百貨店の営業力強化につきましては、重点売場の拡大、売場運営モデルの策定を中心に「新・三越モデル」の完成に向けた取り組みを進めてまいりました。営業面では昨年度の店舗閉鎖、日本橋本店地下バリアフリー工事に伴う営業面積の減少、ブランド価値を損なうバーゲンの廃止などによる売上減少などにより売上高が前年同期比92.8%となりました。商品面では美術・宝飾品は好調に推移した反面、ファッション部門は低調に推移いたしました。その結果、売上高は3,717億9千2百万円（前年同期比92.8%）、営業利益は47億9千3百万円（前年同期比90.1%）となりました。

不動産管理業

不動産管理業は、3月に施設管理業務に特化した株式会社三越環境ビル管理を設立し、また保有資産である東京都の東雲・塩浜の物流センター、都内15ヶ所の配送所の売却を行いました。その結果、売上高は110億1千3百万円（前年同期比126.1%）、営業利益は9億4千1百万円（前年同期比68.8%）となりました。

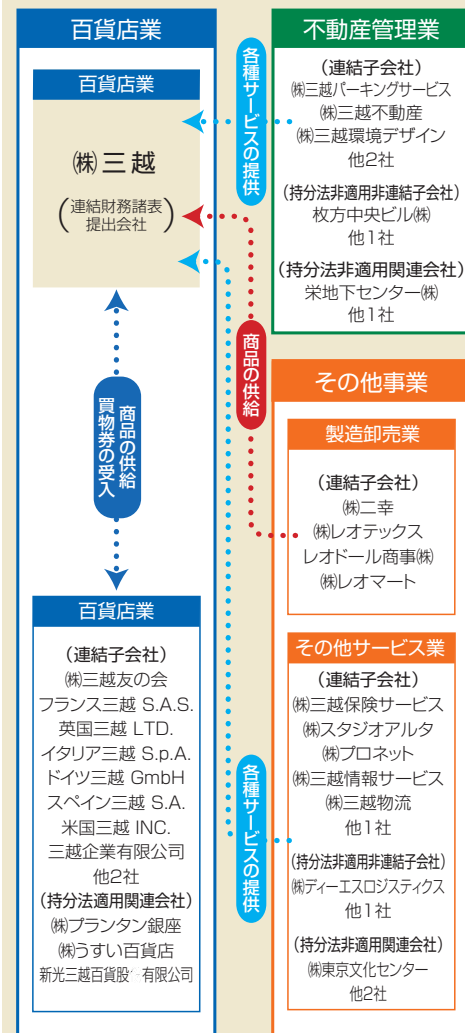
その他事業

その他事業は、製造卸売業およびその他サービス業を営んでおり、有機的なネットワークを構築しながら各分野にて事業を展開いたしました。その結果、売上高は81億2百万円（前年同期比84.6%）、営業利益は7億1千9百万円（前年同期比115.9%）となりました。

■ 通期の見通し

今後の経済環境につきましては、景気の回復に伴う個人消費の増加が期待されますが、先行きの不透明感が払拭しきれないことから、個人消費の本格的回復には今しばらく時間を要すると思われます。このような環境の中で下半期は営業面では銀座店や仙台店等の店舗改装や「ダイヤモンドシティ・ミュー 武蔵村山」への出店などの施策を実施してまいります。また販管費の面でも物流の構造改革や購買管理の領域拡大の施策効果等に引き続き取り組んでまいります。通期の見通しといたしましては、売上高8,130億円、経常利益200億円、当期純利益119億円を見込んでおります。

三越グループの状況



会社法について

■中間連結貸借対照表について

平成18年5月1日施行の会社法により、「資本の部」が廃止され、「純資産の部」が新設されました。これは、貸借対照表上、資産性をもつものを「資産の部」、負債性をもつものを「負債の部」に記載し、それらに該当しないものを資産と負債との差額として「純資産の部」に記載するものです。これにより、会社の支払い能力などの財政状態を、より適切に表示することが可能となります。

■中間連結株主資本等変動計算書について

平成18年5月1日施行の会社法により、「株主資本等変動計算書」が新設されました。これは、連結貸借対照表の純資産の部の中で、主として株主のみなさまに帰属する株主資本について、その1会計期間における変動事由と変動額を、ご報告するために作成する計算書類です。

中間連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科目	前中間期 平成17年8月31日現在	当中間期 平成18年8月31日現在	前期 平成18年2月28日現在
資産の部			
流動資産	130,725	113,108	111,321
固定資産	483,407	463,729	486,027
有形固定資産	381,300	347,470	376,495
無形固定資産	9,603	8,909	9,459
投資その他の資産	92,503	107,349	100,073
資産合計	614,133	576,838	597,349
負債の部			
流動負債	212,336	237,219	238,787
固定負債	261,873	185,406	218,158
負債合計	474,210	422,626	456,945
少数株主持分			
少数株主持分	385	—	384
資本の部			
資本金	37,404	—	37,404
資本剰余金	41,899	—	41,899
利益剰余金	59,278	—	57,799
その他有価証券評価差額金	932	—	2,039
為替換算調整勘定	371	—	1,276
自己株式	△340	—	△400
資本合計	139,537	—	140,018
負債、少数株主持分及び資本合計	614,133	—	597,349
純資産の部			
株主資本	—	141,706	—
資本金	—	37,404	—
資本剰余金	—	41,922	—
利益剰余金	—	62,831	—
自己株式	—	△452	—
評価・換算差額等	—	12,110	—
その他有価証券評価差額金	—	11,176	—
繰延ヘッジ損益	—	7	—
為替換算調整勘定	—	927	—
新株予約権	—	6	—
少数株主持分	—	389	—
純資産合計	—	154,212	—
負債純資産合計	—	576,838	—

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結株主資本等変動計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	当中間連結会計期間 (平成18年3月1日～平成18年8月31日)						評価・換算 差額等合計	新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	株主資本 利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計					
平成18年2月28日 残高	37,404	41,899	57,799	△400	136,702	3,316	—	384	140,403	
中間連結会計期間中の変動額										
剰余金の配当			△1,478		△1,478				△1,478	
中間純利益			6,510		6,510				6,510	
自己株式の取得				△52	△52				△52	
自己株式の処分		23		0	23				23	
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)						8,794	6	4	8,805	
中間連結会計期間中の変動額合計	—	23	5,032	△51	5,003	8,794	6	4	13,809	
平成18年8月31日 残高	37,404	41,922	62,831	△452	141,706	12,110	6	389	154,212	

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	前中間期 平成17年3月1日～ 平成17年8月31日	当中間期 平成18年3月1日～ 平成18年8月31日	前期 平成17年3月1日～ 平成18年2月28日
売上高	418,955	390,907	842,009
売上原価	304,404	283,825	611,800
売上総利益	114,550	107,081	230,208
販売費及び一般管理費	107,355	100,687	214,936
営業利益	7,194	6,394	15,272
営業外収益	5,169	4,958	12,290
営業外費用	3,684	3,749	7,619
経常利益	8,680	7,603	19,943
特別利益	9,393	15,446	13,303
特別損失	2,224	18,406	5,818
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前当期純利益	15,848	4,642	27,428
法人税、住民税及び事業税	558	2,704	1,097
過年度法人税等	311	—	320
法人税等調整額	4,393	△4,580	16,904
少数株主利益	18	8	17
中間純利益又は当期純利益	10,567	6,510	9,088

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	前中間期 平成17年3月1日～ 平成17年8月31日	当中間期 平成18年3月1日～ 平成18年8月31日	前期 平成17年3月1日～ 平成18年2月28日
営業活動によるキャッシュ・フロー	219	12,992	13,286
投資活動によるキャッシュ・フロー	885	23,522	1,750
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,646	△36,988	△20,596
現金及び現金同等物に係る換算差額	74	△13	277
現金及び現金同等物の増減額（減少：△）	△466	△487	△5,281
現金及び現金同等物の期首残高	28,247	22,965	28,247
現金及び現金同等物の中間期末（期末）残高	27,780	22,477	22,965

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

Point

中間連結貸借対照表

● 総資産は5,768億3千8百万円と前期末に比べ205億1千万円減少しました。これは、物流の構造改革に伴う物流施設の売却や減損損失計上で建物及び構築物、土地等が減少したことによるものです。

● 負債合計は4,226億2千6百万円と前期末に比べ343億1千9百万円減少しました。これは、物流施設売却益や上半期売上からのキャッシュインを借入金の返済に充て短期借入金、長期借入金が増加したことによるものです。

● この結果、有利子負債は前期末の2,098億8千6百万円から355億3千9百万円削減し、1,743億4千6百万円と圧縮いたしました。

● 純資産合計は1,542億1千2百万円と前期末に比べ138億9百万円増加しました。これは中間純利益による利益剰余金の増加と、台湾新光三越が保有する株式を時価評価したことによる、その他有価証券評価差額金の増加等によるものです。

Point

中間連結損益計算書

● 販売費及び一般管理費は店舗閉鎖、物流の構造改革および購買改革等により、人件費・宣伝費・物流費の項目で削減が図られています。

● 特別利益では物流の構造改革に伴う物流施設の売却等により固定資産売却益として141億5千5百万円を計上しています。

● 特別損失では(株)三越、(株)三越不動産、(株)二幸の減損損失として151億8千4百万円を計上しています。

中間貸借対照表 (要旨)

(単位: 百万円)

科目	前中間期 平成17年8月31日現在	当中間期 平成18年8月31日現在	前期 平成18年2月28日現在
資産の部			
流動資産	113,256	102,116	106,164
固定資産	424,728	409,494	423,374
有形固定資産	312,766	297,914	308,792
無形固定資産	26,999	26,773	26,967
投資その他の資産	84,962	84,807	87,615
資産合計	537,984	511,611	529,539
負債の部			
流動負債	193,385	241,570	225,727
固定負債	232,037	169,079	196,922
負債合計	425,422	410,650	422,650
資本の部			
資本金	37,404	—	37,404
資本剰余金	41,516	—	41,525
利益剰余金	33,109	—	26,454
その他有価証券評価差額金	844	—	1,877
自己株式	△312	—	△373
資本合計	112,562	—	106,889
資産・資本合計	537,984	—	529,539
純資産の部			
株主資本	—	99,773	—
資本金	—	37,404	—
資本剰余金	—	41,548	—
利益剰余金	—	21,245	—
自己株式	—	△424	—
評価・換算差額等	—	1,181	—
新株予約権	—	6	—
純資産合計	—	100,961	—
負債純資産合計	—	511,611	—

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間損益計算書 (要旨)

(単位: 百万円)

科目	前中間期 平成17年3月1日~ 平成17年8月31日	当中間期 平成18年3月1日~ 平成18年8月31日	前期 平成17年3月1日~ 平成18年2月28日
売上高	391,163	362,779	787,774
売上原価	287,862	266,194	579,805
売上総利益	103,300	96,584	207,968
販売費及び一般管理費	96,719	90,582	193,664
営業利益	6,581	6,002	14,303
営業外収益	2,850	3,287	5,153
営業外費用	4,317	4,478	8,637
経常利益	5,114	4,812	10,820
特別利益	9,378	2,978	12,536
特別損失	2,493	13,685	5,972
税引前中間(当期)純利益又は税引前中間純損失(△)	11,999	△5,895	17,383
法人税、住民税及び事業税	61	59	122
法人税等調整額	4,874	△2,223	16,852
中間(当期)純利益又は中間純損失(△)	7,064	△3,730	409
前期繰越利益	14,748	—	14,748
中間(当期)末処分利益	21,812	—	15,157

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間株主資本等変動計算書 (要旨)

(単位: 百万円)

科目	当中間会計期間 (平成18年3月1日~平成18年8月31日)												
	株主資本										評価・換算 差額等	新株 予約権	純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益 準備金	利益剰余金 その他利益剰余金		自己株式	株主資本 合計				
	資本 準備金	その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計		特定資産 圧縮積立金	繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計						
平成18年2月28日 残高	37,404	41,458	67	41,525	8,564	2,732	15,157	26,454	△373	105,011	1,877	—	106,889
中間会計期間中の変動額													
平成18年5月23日開催の定時 株主総会決議による特定資産 圧縮積立金の取崩						△382	382	—		—			—
その他の事由による特定資産 圧縮積立金の取崩						△299	299	—		—			—
剰余金の配当							△1,478	△1,478	△1,478				△1,478
中間純損失							△3,730	△3,730	△3,730				△3,730
自己株式の取得									△52	△52			△52
自己株式の処分			23	23					0	23			23
株主資本以外の項目の中間 会計期間中の変動額(純額)											△696	6	△689
中間会計期間中の変動額合計	—	—	23	23	—	△681	△4,527	△5,209	△51	△5,237	△696	6	△5,927
平成18年8月31日 残高	37,404	41,458	90	41,548	8,564	2,050	10,629	21,245	△424	99,773	1,181	6	100,961

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社の概況

Corporate Profile

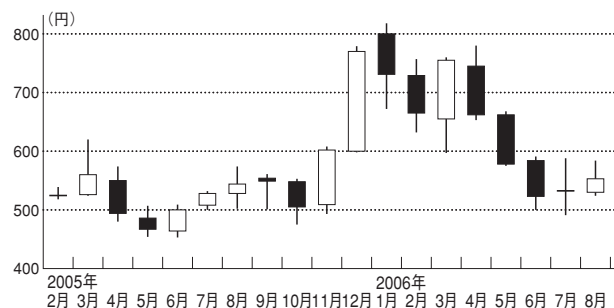
(平成18年8月31日現在)

商号 株式会社 三越
 事業内容 百貨店業
 本店所在地 東京都中央区日本橋室町一丁目4番1号
 創業 延宝元年(1673年)
 会社設立 平成15年9月1日
 (旧株式会社三越は明治37年(1904年)12月6日設立)
 資本金 37,404,066,207円
 従業員数 6,807名(男性 3,754名 女性 3,053名)

役員

代表取締役社長 石塚 邦雄 取締役 佐藤 文夫
 代表取締役専務執行役員 山本多加志 取締役 北山 禎介
 取締役常務執行役員 谷北 陽一 取締役 見城 美枝子
 取締役常務執行役員 小野 俊一 常勤監査役 阿部 健一
 取締役常務執行役員 天野 公平 常勤監査役 竹並 紘司
 取締役上席執行役員 重松 健 監査役 佐成 豊彦
 取締役上席執行役員 松村 茂 監査役 河村 綱也

株価の推移 (月足)



株式の状況

Stock Information

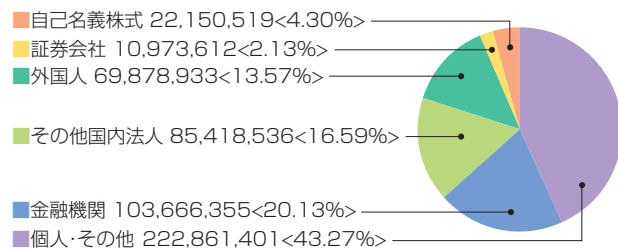
(平成18年8月31日現在)

- 発行可能株式総数 ……………1,000,000,000株
- 発行済株式総数 ……………515,022,356株
- 株主数 ……………83,057名
- 大株主

株主名	持株数 (株)	議決権比率 (%)
財団法人三越厚生事業団	40,199,506	8.24
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	18,605,000	3.81
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	14,767,000	3.03
株式会社大塚家具	14,119,000	2.89
三井生命保険株式会社	11,195,000	2.29
三越従業員持株会	8,974,153	1.84
三越愛護会	8,366,428	1.71
モルガン スタンレー アンド カンパニー インターナショナル リミテッド	7,943,716	1.62
ザチェース マンハッタンバンク エヌ イー ロンドン	7,120,716	1.46
株式会社三井住友銀行	7,000,000	1.43

株式分布状況 (所有者別株式分布)

株式数 (株)



※自己名義株式22,150千株は株主名簿上の株式数であり、平成18年8月31日現在の
 実質保有残高は22,149千株です。

株主様優待制度のご案内

株主お買物優待券

2月末日および8月31日現在1,000株以上ご所有の株主のみなさまに「株主お買物優待券」を発行いたします。

●有効期限

対象	郵送時期	有効期限
2月末日現在の株主様	5月下旬 (定時株主総会終了後)	12月31日
8月31日現在の株主様	11月上旬	翌年6月30日

●発行基準

1,000株以上3,000株未満	15枚
3,000株以上5,000株未満	30枚
5,000株以上8,000株未満	45枚
8,000株以上	60枚

◇本券は紛失されても再発行いたしかねますので、お取扱いには充分ご注意ください。

◇ご優待につきましては店舗により優待率、割引除外商品・サービス等が異なるものもございますので、あらかじめご了承ください。

お買物のご優待

現金(三越商品券および全国百貨店共通商品券を含む)でのお買物に限り、本体価格(税抜価格)の7%のご優待割引となります。ただし、他の優待割引との併用はできません。

●ご利用方法

- 本券はお買物代金お支払いの際にご提出ください。

- 当日中のお買物については、1枚で1日何回でもご利用いただけます。
- 本券は綴りから切り離してご利用いただけます。

●ご利用店舗

三越本支店・沖縄三越・全国各地の三越小型店舗
海外店(台湾新光三越・オランダ三越は除く)

●ご優待割引除外商品

食堂、喫茶、商品券、お仕立券、ギフト券類(ビール券、全国共通図書カード等)、ギフトインデックス類、煙草、官製品、土地および住宅関連工事、荷送料、旅行代金、保険料、呉服誂工料、紳士婦人既製服工料、生鮮品(精肉、鮮魚、野菜等)、ロエベ、ルイ・ヴィトン、ティファニー、カルティエ、エルメス、ブルガリ、その他各店で指定する売場の商品

ホテル宿泊のご優待

帝国ホテル東京・大阪、オークラホテルズ&リゾート(国内)、ホテルニューオータニ東京、ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルに株主お買物優待券にて、ご優待料金が宿泊いただけます。

【ご利用ホテル】



帝国ホテル

- 帝国ホテル東京：モデレートルーム、インペリアルフロアデラックスルーム
 - 帝国ホテル大阪：レギュラールーム、スーペリアルーム
- ご予約先TEL(東京)03-3504-1251
(大阪)06-6881-4100



オークラホテルズ&リゾート

- 東京をはじめ札幌、新潟、京都、神戸、福岡等国内17ホテルがご利用いただけます
- ご予約先TEL 0120-003741

- 通信販売事業部取扱いのカタログ掲載商品等も7%のご優待割引となります。ただし、店頭への電話注文並びに上記の通販カタログ以外のオンラインショッピングでの代金引換配送には、ご利用いただけません。

その他のご優待

- 三越各店で開催の文化展、美術展などの有料催事を無料で鑑賞いただけます。
(ご本人様およびご同伴者1名様)
- 日本橋三越劇場をご優待料金でご観劇いただけます。
(除外公演有り。優待公演名、料金については三越劇場へお問い合わせください)
- 写真撮影・貸衣裳・理美容・クリーニング・時計修理(電池交換を除く)をご優待割引でご利用いただけます。

●ご利用方法

宿泊のお申込みは各ホテルのご予約センターにて承ります。お申込みの際、株主お買物優待券番号をお申出ください。尚、ホテルにより優待率、優待対象となるお部屋等が異なりますので、詳しくは各ホテルご予約センターにてご確認ください。



ホテル ニューオータニ

●ホテルニューオータニ東京・タワーデラックスルーム
ご予約先TEL 0120-112211



ヨコハマグランド インターコンチネンタルホテル

●全部屋対象●その他スパプラン・エステプランのご優待がございます
ご予約先TEL 045-223-2222 (代表)
宿泊予約まで

株式事務手続きのご案内

■株式事務のお問い合わせ先

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

フリーダイヤル **0120-78-2031**

■株式の手続き用紙のご請求

当社の株式事務を取り扱っております中央三井信託銀行では、株主の皆様への**住所変更、配当金振込指定書**などの用紙のご請求を電話およびインターネットのホームページで24時間受付しておりますので、どうぞご利用ください。

●インターネットによるご請求

ホームページアドレス

http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06m.html

※証券保管振替制度をご利用の方は、恐れ入りますが、お取引の証券会社へご照会ください。

●電話によるご請求

受付フリーダイヤル **0120-87-2031**

(操作の方法は、音声案内に従ってください。)

ご請求できる用紙 住所変更届・名義書換請求書・単元未滿株式買取請求書・配当金振込指定書

株主メモ

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
剰余金配当基準日	期末配当/2月末日
定時株主総会	毎年5月
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	新券1枚につき210円(税込み) (ただし、併合、満欄による場合は無料)
公告方法	電子公告により公告 (やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は日本経済新聞に掲載して行います)
証券コード	2779 (平成15年9月1日合併により8231から変更)

店舗のご案内

■主要店舗

日本橋本店

〒103-8001
東京都中央区日本橋室町1-4-1
TEL.03-3241-3311(代表)

新宿アルコット店

〒160-8455
東京都新宿区新宿3-29-1
TEL.03-3354-1111(代表)

銀座店

〒104-8212
東京都中央区銀座4-6-16
TEL.03-3562-1111(代表)

池袋店

〒170-8439
東京都豊島区東池袋1-5-7
TEL.03-3987-1111(代表)

恵比寿店

〒150-6090
東京都渋谷区恵比寿4-20-7
TEL.03-5423-1111(代表)

多摩センター店

〒206-8543
東京都多摩市落合1-46-1
TEL.042-357-7111(代表)

武蔵村山店(11月18日(土)オープン)

〒208-0022
東京都武蔵村山市榎1-1-3
TEL.042-516-1111(代表)

千葉店

〒260-8631
千葉県千葉市中央区富士見2-6-1
TEL.043-224-3131(代表)

新潟店

〒951-8530
新潟県新潟市西堀通五番町866番地
TEL.025-227-1111(代表)

仙台店

〒980-8543
宮城県仙台市青葉区一番町4-8-15
TEL.022-225-7111(代表)

札幌店

〒060-8666
北海道札幌市中央区南1条西3-8
TEL.011-271-3311(代表)

名古屋栄店

〒460-8669
愛知県名古屋市中区栄3-5-1
TEL.052-252-1111(代表)

ラシック店

〒460-0008
愛知県名古屋市中区栄3-6-1
TEL.052-259-6666(代表)

星ヶ丘店

〒464-8661
愛知県名古屋市中区星ヶ丘14-1-4
TEL.052-783-1111(代表)

広島店

〒730-8545
広島県広島市中区胡町5-1
TEL.082-242-3111(代表)

高松店

〒760-8639
香川県高松市内町7-1
TEL.087-851-5151(代表)

松山店

〒790-8532
愛媛県松山市一番町3-1-1
TEL.089-945-3111(代表)

福岡店

〒810-8544
福岡県福岡市中央区天神2-1-1
TEL.092-724-3111(代表)

鹿児島店

〒892-0826
鹿児島県鹿児島市呉服町6-5
TEL.099-225-2111(代表)

■海外店(子会社・関連会社等)

英国三越株式会社

ロンドン三越
(ショップ・レストラン)

フランス三越株式会社

パリ三越

三越エトワール

イタリア三越株式会社

ローマ三越

ドイツ三越株式会社

デュッセルドルフ三越
フランクフルト三越
ミュンヘン三越

スペイン三越株式会社

マドリッド三越

米国三越株式会社

オーランド三越
(デズニワールド®内ショップ・レストラン)

新光三越百貨股份有限公司

台北南京西路店

台北駅前店

台北信義1号店

台北信義2号店

台北信義3号店

台北信義4号店

台北天母店

桃園店

新竹店

台中店

台南1号店

台南2号店

高雄三多店

花園飯店(上海)三越ショップ

三越の歴史 9

1982年 オーランド三越(デズニワールド®内)が開店。

フロリダのデズニワールド®に建てられたエポット内に10月1日、オーランド三越(デズニワールド®内)が開店しました。



三越のホームページもあわせてご覧ください。
<http://www.mitsukoshi.co.jp>



ショッピングサイトはもちろん、投資家向け情報などさまざまな情報を開示している当社ホームページをぜひご覧ください。



MITSUKOSHI

株式会社 三越

〒103-8001 東京都中央区日本橋室町一丁目4番1号

〈お問い合わせ先〉

コーポレート推進室(株主担当) TEL.03-3241-3311(代表)



古紙/15%配合率100%再生紙を使用しています

